

ツミ一家の観察日記

2023/7/26

小金井自然観察会会員 川村宜義 (記)

共同観察者：敬称略

伊藤周、長名優子、松村茂生

東京都府中市の某所にソメイヨシノの古木が鎮座しています。2023年4月20日、花を散らして何も無い桜の木をふと見上げると、普段見ない野鳥が2羽、最上段の枝からこちらを見下ろしているではありませんか(写真1)。野鳥の名前は疎いので、早速、共同観察者の皆さんに報告しました。私はオオタカの幼鳥と思っていましたが、チョウゲンボウ、ツミ、ハイタカのいずれかの可能性が高いと御意見を頂きました。最終的に野鳥に詳しい方に判定して頂き、「ツミ」と判明しました。



写真1 桜の古木の最上段

ここで「ツミ」についてちょっとだけ解説します。(ウィキペディアより抜粋)

ツミ(雀鷹) タカ目タカ科ハイタカ属

分布：インドネシア、カンボジア、タイ、大韓民国、台湾、日本など

夏季に中国東部、日本、韓国などで繁殖

冬季は中国南部、東南アジアに南下して越冬

全長：オス27cm メス30cm

会の皆様にも報告したかったのですが、情報を公開すると、野鳥カメラマンが殺到して三脚が乱立し、施設の運営に支障をきたす事態になる可能性があるため、共同観察者3氏と協議し、隠密で観察を行うこととしました。

4月23日、長名さんから「巣もあるよ、エノキの木で営巢中みたい」との報告を受けました。ありがとうございました。未完成のようですが、ツミの巣です(写真2)。いやはや、こんな住宅街の近くで営巢とは。



写真2 ツミの巣

松村さんから「多磨霊園で幾度か子育てしていたよ」との話を伺いました。

4月25日、ちょっとピントが合っていませんが、交尾の瞬間を捕えました(写真3)。



写真3 交尾の瞬間

5月10日、巣が完成したようで、オス、メス交代で抱卵に入った様子。この日からどちらかの親が巣に入り、じっとして動かないことが多くなりました(写真4, 5)。



写真4 抱卵中の親ツミ(メス)



写真5 抱卵中の親ツミ(オス)

6月14日、この日のメスは巣の淵に立って巣を覗き込んでいます。抱卵は終わって雛が孵ったのでしょうか。残念ながら、巣の中を覗くことはできません(写真6)。刺激してしまうと、警戒し、巣を放棄してしまうこともあるようです。ここはじっと我慢です。



写真6 巣を覗き込む親

6月18日、なかなか生まれないとやきもきしていたのですが、ようやく雛の姿を見ることができました。まだ目も開いていない感じの真っ白いぬいぐるみのような雛です(写真7、8)。この日は雛の数は確定できませんでした。

早速、共同観察者の3氏に「生まれたよ!」と報告しました。



写真7 生まれた雛



写真8 親ツミから餌をもらう雛

6月21日、給餌に立ち会いました。オスが狩りで獲物を射止め、巣のそばに戻ってくると、メスに合図をします。ピピピピピ〜。メスはその合図で餌を受け取りに行き、獲物の鳥の羽をむしり、給餌しやすい形に整えて巣に運び、雛に給餌します(写真9)。餌になった鳥の羽を調査したところ、ムクドリ、スズメ、コウモリと確認。



写真9 餌をさばく親ツミ

右の写真では3羽確認できますが、どうやら雛は4羽いるようです(写真10)。4羽のうち特定の1羽が食いしん坊で、メスが食べやすいように小さくした餌を片っ端から取って食べてしまいます。4羽すべて育つか心配になってきました。



写真10 3羽の雛と給餌する親ツミ

6月24日、雛の顔がしっかりとしてきました。目がクリっとして愛らしいです(写真11)。この頃から、少し茶色い毛も混じってきました(写真12)。

6月26日、だいぶ雛が大きくなりました。まだ、頭や身体や羽は白く、見た目は親とかけ離れており、こどものままなのですが、巣が4羽のこどもでいっぱい、狭そうに見えます(写真13、14)。雛を確認してからまだ8日しか経っていませんが、野生動物の成長には目を見張るものがあります。

ここまで大きくなると雛は排泄を巣の外に向かって行きます。自分の家は汚さない、よい心掛けですが、真下を通行していた人にとってはひとたまりもありません。頭上から鳥の糞が降ってくるようになります。皆さんから巣がある木の周りに柵をしたほうがよいのではとの提案があり、6月26日に施設管理者にツミの子育て、巣の位置などを説明し、巣の下に柵を設置してもらいました。さらに、御協力頂き、巣立つまで施設に迷惑がかからない時間帯に施設内で観察させてもらう許可をもらいました。大手を振って観察できるようになりましたが、隠密観察は続行します。



写真11 雛のアップ



写真13 巣がいっぱいっぴいの状況



写真14 ぎゅうぎゅうの巣の中
(長名さん提供)



写真12 茶色い羽が混じってきた雛
(長名さん提供)

施設をお願いした直後に事件が起きました。自宅に戻って仕事をしていると、施設の管理者から電話が…。いやな予感です。許可が取り消しに？ 恐る恐る電話に出ました。「ツミの雛が巣から落ちました。雛を保護しています。どうしましょうか。」との連絡でした。予想外の事態でした。早速、共同観察者の3氏に報告。そして野鳥に詳しい方に対応策を問い合わせし、(1) 巣に戻す (2) 無理ならば鳥の内臓などを与えて育てるの回答を頂きました。保護された雛を引き取らないことには話が始まらないので管理事務所に向かいました。空気穴を沢山あけた大きな段ボールを1つ渡されました。ゴソゴソゴソ。箱の中で動き回っています。家に持ち帰り、中を確認します。雛とはいえ、猛禽類。嘴や爪でつかれたら大怪我になります。厚手の服と手袋で身を堅めて部屋を暗くして、ちょっとだけ蓋を開けて箱の中を覗きます。頭が見えました。黒い頭です。あれ？ ツミの雛の頭は黒かったっけ？ さらにもう少し蓋を空けます。体が見えました。薄い綺麗な水色の羽が見えます。ん？ ツミじゃない?! この鳥は…オナガだ!

施設の方の話では何かに追われてツミの巣の方から建物の入り口付近に落ちてきたとのことでした。施設の敷地内には色々な野鳥がいて、今年は特にオナガが多く飛んでいます。どうやらツミの巣に近づいたオナガの若鳥がツミの親に警戒されて追われたようです。早速、共同観察者の3氏にオナガの若鳥であったことを報告。オナガの子であれば巣の近くに放せば親が面倒をみてくれると情報を頂きました。巣の場所がわからないので施設内の木々が鬱蒼としているところに放しました。放した若鳥が鳴き声を上げると、オナガの成鳥が数羽、集まってきました。これで一安心。一件落着です。差別はいけません、ツミの子ではないとわかった瞬間、ホッとした自分がいました。



写真 15 大きくなった雛

6月28日、外観は白いですが、嘴、羽、足はタカそのものになってきました (写真 15)。

6月29日、巣から3羽の雛たちが外を覗いていました (写真 16)。

6月30日、雛の写真です。左の雛と右の雛で育ち方が違います。同じ日に生まれて育つ環境は同じでも個体差がでています (写真 17)。



写真 17 雛の個体差



写真 16 3羽の雛たち
(長名さん提供)

7月1日、いつものように早朝、巣を観察に向かいました。あれっ、雛の数が足りません。巣には1羽しか居ません。巣から落ちてしまったか？ 慌てて周囲を探します。いました! 巣から10mほど離れた枝の上にとまっています。どうやってここへ? この位置には飛べないと移動できません。そうです。とうとう飛べるようになったのでした (写真 18)。



写真 18 巣から離れた場所にいた雛

7月5日、巣に2羽いました。遠目に見ると親なのか、子なのか判断が難しくなってきました (写真 19)。親からの給餌のときだけ巣に戻ってきて4羽で「わいわい」と賑やかに食事をします。なかなか微笑ましい光景です。



写真 19 親に似てきた雛



7月7日、左の写真はまだ産毛が頭に残っているこどもです。大人になると産毛がすべて抜けてキリッとした佇まいになります(写真20)。

7月8日、とうとう4羽すべて巣から離れてしまいました。まだ狩りはできないので巣の周りを飛び交っています。巣から離れた枝に4羽が横並びした写真です(写真21)。孵化して約1ヶ月、よくぞ、4羽揃ってここまで育ってくれました。

写真20 産毛が残っている雛



写真21 雛4羽勢揃い

7月15日、下の写真は羽を広げた瞬間。もう立派な大人に見えます(写真22)。



写真22 羽を広げた雛

7月16日、右の写真は横顔。凛々しいですね(写真23)。

2枚のツミの羽。左は幼鳥の羽。右は成鳥(三列風切 te2)の羽(写真24)。



写真24 ツミの羽



写真23 凛々しい横顔

7月20日、セミを自力で捕えて食事をしています(写真25, 26)。まだ4羽のこどもはセミ(虫)のような小物は捕えられますが、小鳥のような大物を捕えることはできません。

7月21日、親から餌を受け取り、兄弟ツミに餌をとられないように、右足でしっかりと餌をつかみ、羽を広げて踏ん張っている様子(写真27)。



写真25 セミを捕食中の雛



写真27 横取りされないように確保

伊藤さんがポツリと一言。「この子たちとはいつまでここで会えるのだろうね。急にいなくなったら寂しいね。」そろそろ、こどもたちの独り立ちの時期とはわかっていても、3ヶ月も観察していると情がわきます。



写真26 セミを捕食中の雛(2)
(長名さん提供)

7月23日、営巣から3ヶ月、孵化しているのを確認してから1ヶ月半、4羽のツミの子は大きく成長し、今日も施設内の木々の間を乱舞しています(写真28~30)。



写真28 2羽の舞



写真29 遅れて着枝



写真30 羽ばたき

7月24日、オス1羽、メス2羽の幼鳥を確認。残り1羽は確認できませんでした。どこに行ってしまった?

7月25日、この日はこどもたちがなかなか姿をあらわしません。やっとオス1羽、メス1羽を確認しました(写真31、32)。

7月26日、とうとう某施設でツミ一家を見かけなくなりました。こどもたちの旅立ちです。この日をもって、ツミ一家が旅立ったと共同観察者4名で結論づけました。

【感想】

寂しくなりますが、詳細に観察できたことはなよりの宝です。4羽のこどもたちが、来年、伴侶とともにまたここで営巣して子育てしてくれると嬉しいですね。施設の方々の御協力、一緒に観察して下さった小金井自然観察会の3氏に御礼申し上げます。



写真31 やっと確認
できたメス



写真32 やっと確認
できたオス(松村さん提供)

【共同観察者より提供頂いた資料】

★★伊藤さん★★



猛禽の血糊に六月の光

★★長名さん★★



6月27日 親から餌をもらう雛

★★松村さん★★



6月22日 巣の中の真っ白な雛



夏の月より舞い降りし猛き雀鷹(つみ)



7月7日 2羽の幼鳥たち



7月13日 親からもらった餌をつかむ幼鳥